

中央公民館だより

うおぬま市民大学 H27.2.14

演題「諦めずに続けること」

講師：飯沼 誠司水辺から未来を創る



「諦めずに続けること」
飯沼 誠司 様

みんなが学べる

公民館事業を

公民館運営審議会 副委員長 佐藤 静子



「いつでも、だれでも、どこでも」学べる生涯学習として、各地区公民館で多くの活動が企画、運営されております。

昨年、市内地区公民館の施設を訪れる機会を頂き、館長さん、スタッフの方のご苦勞の様子が伺えました。

各地区の文化や特徴を存分に取り込まれた多くの事業が用意され、市民にとっては向学心を増すものと思われます。

しかし現在は会場のほとんどが市や旧町村の中央近くになつてゐるため、交通の手段も無くて、学びたい思いを持っていても、参加することすら出来ない人が遠隔地には多くおられます。以前の高齢者教室等で元気よく学ばれていた方々です。参加者の人数の多い少ないだけでの判断はせず、出前のような形でも実現していただきたいと願つております。こんな小さなことも実行できるのが公民館活動ではないのかと。

若い人達だけではなく、高齢者も元気でいてこそ「魚沼元気」なのではないでしょうか。限りある予算の中で企画されている事業です。市民があまねく参加できるようなプログラムを組むことも、主催者側の責務と思えます。そして、ひとりでも多くの市民に参加して頂くよう、「ひと声」掛けて勧誘することも時には必要かと考えます。一部の人がばかりの公民館事業であつてはいけないと思うからです。

堀之内公民館 「高齢者大学」から

堀之内公民館では、年間を通じて、堀之内地区老人クラブ連合会のご協力をいただき、「高齢者大学」を開催しています。中でも、移動講座の「お寺巡り」は毎年好評をいただいております。

例年ですと堀之内地内のお寺を順番に巡るのですが、今年は石川雲蝶生誕200周年にあわせ、堀之内を飛び出し、魚沼市大浦にある「西福寺・開山堂」を訪問し、二日間で延べ95人が参加しました。

まずはご本尊様（阿弥陀如来三尊様）にお参りを済ませ、西福寺を見学しました。

今回、お皆様のご厚意で、地元大浦在住の、佐藤春美様から、昔語りを聞かせていただくことになりました。

雲蝶にまつわる昔語り「大龍和尚と石川雲蝶」、地元になんだ「水無川」を語っていただき、参加者もこの思いがけないサプライズに、静かにそして熱心に耳を傾けていました。

本当にありがとうございました。

寺内の「雲蝶の間」では、襖絵「崖上猛虎」や緻密な細工の書院障子、本堂では襖絵「孔雀遊戯図」などを鑑賞しました。また、廊下にある埋め木細工に、雲蝶の粋な遊び心を感じました。

開山堂では、事前にお借りしていたライトを使い、音声ガイドの説明に合わせ、彫刻群を照らしながら鑑賞しました。

御開山された芳室祖春大和尚様と曹洞宗の開祖

様である道元禅師様が照らされ、その後、欄間にまつわる解説に合わせ、その主人公が照らされます。そしていよいよ「道元禅師猛虎調伏の図」へ。隠れている動物を一つ一つ確認するのも、楽しいひとときでした。

一面の天井彫刻に感動し、そして幕末の時代に思いを馳せながら、西福寺・開山堂を後にしました。

帰り際、「古民家内田邸」にもお邪魔し、軒先や囲炉裏端でもおもてなしを受けました。雲蝶を通じ、地元の方の温かさに触れることができました。「お寺巡り」は地域の宝を再発見すると共に、気持ちと穏やかにし、癒しを与えてくれます。

今回も貴重な回となりました。

次年度は、塩沢方面を訪問する予定です。多くの皆様の参加をお待ちしております。

(今野)



参加者の声 スノーシュー・トレッキングに 参加して



志田 恒夫

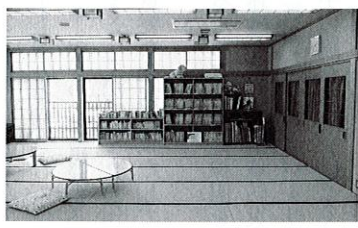
小学六年生の息子と初めて、入広瀬公民館主催の「スノーシュー・トレッキング」に参加しました。参加する前に「スノーシュー」て何？子どもに聞かれても、うまく説明できず、不安のまま当日になりました。指導員の方から、「スノーシュー」の説明を聞き、履き方を習い、そこで初めてどういふものかわかりました。早速、履いてみることになりました。「かんじき」は、毎年履いているので慣れていましたが、「スノーシュー」は丈が長く、履くのも手間がかかりました。

準備が整った後、指導員の方から道をつけてもらい、トレッキングの始まりです。雪山を「ザクザク」と登っていきます。あいにくの悪天候で、容赦ない吹雪が体に突き刺さるようで大変でした。途中で木の陰のところで一休みしました。子どもたちは、「風の子」と言われるように、休んでなんかいません。普段味わえない「雪山」を満喫していました。わずか半日間でしたが、子どもと一緒に楽しめた時間でした。大変ありがとうございました。

広神公民館（広神コミュニティセンター）紹介

中央公民館長 蕪澤 文隆

広神コミュニティセンター内に広神公民館と広神図書館が入っています。広神公民館には旧村時代から継続している事業が幾つかあります。一月十八日に行われた百人一首大会がその一つです。大会は「広神小倉会」が中心となり二十六回行ってきました。近年、情操だけではなく学習面でも効果があると、保育園や小学校でも取り上げる所が増えてきているということ。また、「ふるさと運動」の一環として昭和五十三年に、村民に募集して作った「おらが広神いろはかるた」があります。大人から小学生までの七百八名、七千四十二点の力作が寄せられました。入選した読み札に対して、魚沼が生んだ水墨画家・大嶋月庵が、一枚一枚絵札を描きました。このかるたを使った大会は、一度途絶えてしまったものの、復活させて六回目となりました。



旧広神村小平尾集落は、かつて「石工の村」と知られていた所です。近隣地域の石造物は大半が小平尾石工の手に成るものです。彼らで作った石仏は急速に失われ、忘れられようとしていたため、当時の広神村は「石仏教室」を開き、直接現地に赴き、石仏に触れながら調べました。そして広神村文化財調査報告書「野の神 野の仏 広神の石仏」を、石仏散策のガイドブックとして平成十五年に編纂しました。この先人の思いを引き継ぐために広神公民館は、地域起しも兼ねて「地域の宝探し」と銘打って参加者を募って四年になります。当日は地域の人たちも参加して、普段見慣れている石仏等のいわれなどを聴き、改めて地域の大切な宝と認識を深め



る事ができたと好評です。

最後になりましたが、二階には複合施設として市立広神図書館があります。図書館としては珍しい畳敷きの広い部屋があります。ゆったりとできますから、お年寄りや幼児の人たちに人気があります。また、幼児向けの蔵書が割と充実しているので、それを目当てに来館する人も多くあります。一度立ち寄ってみてください。

**参加者の
声 声 声**

広神かるた大会に想う

秋元 真由美

このかるた大会に参加を始めて今年で六年。我が家にとつて冬の恒例行事のひとつです。

始めに餅つきが行われ、大きなうすに蒸しあげたもち米が入れられていく。子どもたちの笑顔と掛け声の響くひとときです。つきたて餅でお腹も膨らんだ後、小正月の稲穂飾りを作りました。豊作を願いながら餅で小さな団子を作り、米に見立ててヌイゴに奇数個つけ、ミズキの木に吊したものです。家庭でこのような行事をすることもなくなつた今、伝統を繋いでいく貴重な体験もできました。その後、低学年・親子の部に分かれてのかるたとり。昭和五十六年に製作された広神かるたは、当時の小学生が親となり、世代を繋いで楽しんでいくかるたです。

魚沼市となり十年、子どもたちには「広神村」という名称も実体を持たないおぼろげなものではないかもしれません。広神かるたに姿を変えて、親子で遊んだ楽しい記憶とともに、郷土を愛する心を育む材料となつてくれることを願っています。



小出北部コミュニティ協議会と

小出北部公民館

中央公民館長 菲澤 文隆

小出北部コミュニティ協議会は、昭和五十九年に設立され、昨年三十周年を迎えることができました。設立当時は、ちょうど魚野川河川改修が進められている最中で、多くの住民が移転しなければなりません。移転先はそれぞれ違っており、昨日まで

のお隣さんがいなくなり、今まで知らなかった人が新たに隣人になることになったのです。そして、町内会の機能がうまく働かない所も出てきました。そこで今の新しい地域の人たちお互いが仲良く、協力しあえる関係を作りたいという要望が出てきました。その要望をかなえる方策の一つとして「ふれあう街、元気な街、安全な街」を地域活動のテーマに掲げ、自治会、町内会を越えた小出北部コミュニティ協議会という組織を立ち上げて、地域づくりの活動に取り組みはじめました。

各地区に住民が集う施設はありましたが、北部地域全体としての施設がありませんでした。そこで同時に小出北部公民館の建設を進め、昭和六十年にオープンしました。さらにインフラの整備を進めてゆることが急務でしたので、北部ふれあい広場、北部プール、ゲートボールコート等と整備されてゆきました。それに合わせて、北部地区コミュニティ祭りやふれあい広場祭り、ふれあいハイキング等地域の人たちの輪を作り上げてゆくことができました。これらの事業を推し進めていく上でも、北部公民館は重要な役割を果たしてきました。

また、北部コミ協は、社会情勢の変化に適切に対応するために、優先課題を明確にして対応してきました。現在、防災訓練や緑化運動などの「地域防災を進める部」、環境美化やコミ協祭りの「生活と文化を高める部」、リバーサイドクリーン作戦や魚沼子どもフェスティバルの「親子の触れ合いをはぐくむ部」の三部体制で臨んでいます。

そして北部公民館とは、「ふるさと講座」や「子育てパパママ応援します」、「夏休み学習室無料開放」等の活動を共催するなど、ますます連携を深めています。このように北部公民館とは三十年間共に歩んできた歴史があります。北部コミ協は、公民館の企画や事業に加わりながら、今後は公民館へのニーズ把握や事業のPRなどにも力添えをしてゆきたい、とのことでした。



繭玉と遊んで

シルクフラワー教室講師

貝瀬 フミ



こんにちは、今日は繭玉でストラップ「交通信号と花すずらん」を作りましょうね。と小学生を対象とした繭玉細工教室で言うと、子どもたちがキョトンとした顔で丸い目をくりくりさせながら、渡された材料を上げしげと見つめていました。そしてこの繭玉は最初から最後まで一匹の蚕が一生懸命糸を口から吐きながら作ったんですよ、長さは一五〇〇mもあり、一本で繋がっていると説明すると、子どもたちはキャハハと言いながら益々目を丸くし、早速作業に取りかかり、アツという間にストラップを作り上げ、余った時間で自分たちのアイデアを加え、予想以上の作品を作り上げました。あの時の子どもたちのキラキラした目が今でも私の脳裏から離れません。そして翌年から大人を対象とした「シルクフラワー講座」を年八回やることになり、以後三年実施し、小出地域文化祭にも三回出展しました。中には三ヶ年とも受講される方もおられ、本物と見間違えう程の作品を作り上げ、文化祭に出展するのは恥ずかしいと言いつつも苦労の証を嘸みしめておられました。

昔は、繭玉で花を作るとか、繭玉細工で遊ぶなど、誰もがとても思いもよらぬことでした。しかし、今ではシルクと言えれば私たちの頭のとっぺんから足の先までに使われており誰もが憧れる存在になっています。このシルクの素晴らしさを知れば知るほど、

将来に繋ぎ、そして地域のために活かさないものかと強く思うようになり、公民館の意向である生涯学習推進の一環として、サークル活動移行への環境作りも視野に思っております。

なお、現況においては、研究機関において、私たちのおよびもつかない「新化する繭」の世界が繰り広げられており「神秘の糸に出逢う日」も、そう遠くない現実が来ると思われる今日この頃です。



H26年度小出地区文化祭展示

堀之内公民館宇賀地分館紹介

宇賀地分館長 八木 正人

宇賀地分館は下鳥、徳田、田川、和長島、下新田の地域の公民館として親しまれてきました。毎年各区から男女二名、計四名の役員が選出され、文化教養、厚生体育、広報の三部、二十四名の体制で活動を行っています。各地区からの助成金などが財源です。この財源を有効に使わせていただき、分館活動が地域間、そして子どもから諸先輩方まで交流を深め、親睦をはかり、笑顔あふれるものとなることを理念として、今年度は年二回発行の広報紙を含め七事業を計画しました。その中の幾つかを紹介します。



一つ目は、七月に行った「グラウンドゴルフ」です。小学校区が同じ竜光分館さんと協力し、一緒にやっています。宇賀地小学校の生徒数七十六名中二十名の参加を得て老若男女大いに楽しみ、地域間の交流も図ることができました。二つ目は、今年度初めて計画し十一月に実施した中越地震復興十周年メモリアルイベントの「コンサート」です。このコンサートの特色は地域の人たちに出演を依頼したこと。特にピアノ演奏は小学生から高校生まで声をかけたところ、ほとんどの方が積極的に参加してくださいましたので、声をかけずじまいの方には申し訳ないことをしたと思っています。そして宇賀地小祝い太鼓です。出来てから七年ほどで、小学校の双葉音楽会で二・四年生が演奏しているものです。参加を募ったところ全員が演奏参加を申し込んでくれました。太鼓としては譜面四枚にわたる長い演奏なのですが、全員参加で打ち鳴らす姿を見ながら地域の人たちに聞いていただくことができました。「先生の指揮が無いのに非常にまとまりがよかったです。」「コンサートに来てよかった。」との声がありました。三つ目は二月に実施する「うかぢ冬物語」です。今年度は時期



を早め、内容を少し変えて節分をしようと考えています。区長さんたちに豆をまいていただき、餅つきをしてトン汁と一緒に子どもたちと共に味わっていただくかと考えています。
子どもたちを中心に据えた活動が多いのですが、いつもお年寄りや子どもさんがない方々にも参加してみようと思える企画をして、大人から子どもまで集える交流の場をこれからも提供していきたいと思っています。

参加者の声

伊米ヶ崎公民館 健康運動教室
夜の健康ウォーキング教室に参加して

小宮山 素子

十月七日に夜のウォーキング教室があり大好評で、十一月に四回コースが行われました。初心者の私は奇跡的に計五回参加することができました。歩く前に公民館で健康づくりストレッチ・筋トレ・体幹トレーニング・脂肪燃焼トレーニング・歩き方など、各コースで指導があり、いざ外に出ます。集まった人は皆さん歩く気満々で服装から違います。私は十分位しか歩いた事がなく四十分と聞いてすっかりビビってしまいました。
案の定前の集団から離れてしまい、娘と一緒に私に合わせてゆっくりペースで歩いてくれたので、やっと公民館に着くことができました。

次からは先頭集団について行こうと前に出て参加者と楽しく話しながら歩き、月がきれい、星がいっぱい、むこうもすごいよと空を見上げる余裕もでき、夜空は美しく輝いていて本当に感動しました。

十一月十四日は大雨で小学校の体育館で行いました。

エンジョイスポーツクラブ魚沼の星先生の巧みな指導で、大股歩きやいろんなゲームを大笑いしながら、広い体育館をいっぱいに使って楽しく過ごしました。

今度また歩く機会があり、参加を迷っている方、私に声をかけてください。一緒に歩きましょう。



地区公民館の活動報告

伊米ヶ崎公民館

八海書道教室

伊米ヶ崎公民館長 森山 喜久男

八海書道教室は、平成二十四年四月から前伊米ヶ崎公民館長をしていた小林和彦氏が始めた教室です。

当初は、隣の伊米ヶ崎小学校の生徒を対象に始めたのですが、現在は卒業して更に書道を習いたいと中学生になっても続けている生徒もいます。教室は、土曜日を原則に月二回実施しています。

さらに、十一月、十二月になると、冬休みの課題の書初め対象の講習会を実施しています。

このときは、伊米ヶ崎小学校だけでなく、市内の小中学生が会場いっぱいになるほど集まる好評の教室となっています。

参加している生徒からは「細かいところまで指導していただいたのでとてもよかったです」「とてもよい作品ができてうれしかった」「自分のどこがダメなのかがわかった」「うまく書きたい」「楽しかったので家でもやりたい」などの感想をもらっています。

これからも、生徒たちの活躍を期待しています。



守門公民館

森林浴を楽しんだ自然教室

守門公民館長 横山 治隆

「緑あふれるオゾンをつばい吸い込み、心身共に元気になった。ガイドさんの丁寧な説明がうれしかった。」

「素晴らしい一日だった！ブナの森や浅草岳が見られた素敵な一日だった。」

「初めて来たが、身近にこんな自然の森があったなんて信じられない。」

「ブナ林の涼しさが心地良かった。ベンチ下のシヨウキランとの出会いが感動！」

等々浅草岳山麓エコミュージアムでの「自然教室」は反響が大きかった。

歩いているようであまり歩いていない自然。覚えておくようであまり覚えていない自然を体感させていただいた半日でした。



だんだん どーも

「だんだんどうも」と聞く
と、「只見線沿線元気会議」
が定番だ。平成23年7月、
新潟福島豪雨災害で只見駅
から会津川口駅間（6駅、
27・6キロ）が代行バス輸送
となっている。早期に再開
を願う関係団体の講演会に
参加できた。

千葉県外房の第三セクター「いすみ
鉄道」の烏塚社長は、「ローカル線は
田舎の風景が引き立つ。鉄道は走って
いるだけでいいんです。次の世代に残
すことが大事。只見線の将来は明るい。
早期全線開通に向けて何をすべきか。
やり方を上手く既成事実をつくる。J
Rも国も美談を待っていて、ああ、こ
れだったら何とかしなければと。只見
線の情報発信が必要で、ローカル線の
横綱です。」

皆さんも被災した鉄道の早期復旧を
願い鉄道に乗り、写真を撮り、手を振
る運動でも。乗るわけでもない切符を
買っているファンは「鉄道への感謝」
という。
(浅井健五)

表紙の

プロのライフセーバーとして海
岸の安全と環境保全活動をしてい
る飯沼さんの生きざまから多くの
ことを学びました。若い人たちの
積極的な参加を待っています。